

第11回委員会

日時：2006年4月15日（土）14時～16時45分

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：永田委員長，鈴木，原井，平田，古川，増井，渡邊

<事務局>磯部

[配付資料]

- 1．「NCR1987 2R」要訂正箇所一覧（15ページ-A4，横山委員）
- 2．NCR付録1「2 コンマ」訂正案（1ページ-A4，横山委員）
- 3．NCR第2章、第3章要訂正箇所（1ページ-A4，増井委員）
- 4．NCR第13章誤植訂正案（1ページ-A4，原井委員）
- 5．NCR編集作業上の確認事項（1ページ-A4，事務局）
- 6．NCR87R3索引修正 / 第2・3章（4ページ-A4，増井委員）
- 7．NCR87R3索引修正 / 第13章（9ページ-A4，原井委員）
- 8．NCR索引の校正（1ページ-A4，平田委員）
- 9．NCR第2章 ISBN13桁化に係る改訂案（2ページ-A4，鈴木委員）
- 10．第30期第10回目録委員会記録（3ページ-A4，事務局）

[報告・連絡事項]

1．委員の異動について

以下2点の異動を確認した。

- ・ 茂出木委員（前・国立情報学研究所）が退任した。引き続き国立情報学研究所から委員を選任予定である。
- ・ 白石委員（東京都立中央図書館）が退任の予定である。後任委員は公共図書館勤務者が望ましいことを確認し、人選を進めていくこととした。

2．IME-ICC4について

ソウルで8月に開催される同会議について、以下の点を確認した。

- ・ 当委員会としては、永田委員長が出席の予定である。
- ・ 会議事務局では日本からより多くの参加者を求めており、いくつかの大学・機関・個人に出席依頼がなされている。国立国会図書館、国立情報学研究所からは出席の見通しである。

[検討事項]

1．NCR改訂版の版表示について

配布資料5の提起について検討したが、版表示に「第」を付すことはせず、「1987年版改訂3版」とすることとした。

2. NCR1987年版改訂第3版に向けた本文（付録等を含む）の訂正について

配布資料1～5を検討し、次のとおり扱いを決定した。

- ・ 配布資料1は前回（3月11日）検討結果のまとめであり、その通り反映させる。
- ・ 配布資料2の提起について、次のとおり修正する。
 - 付録1「2 コンマ」2.1.1.1Cの項の例において、「本タイトル」を「本タイトルの最初の部分」とする。
- ・ 配布資料3の提起について、次のとおり修正する。
 - 2.7.4.5(古)キ 「匡廓」 「匡郭」
 - 3.0.5 「製作地」「製作者」「製作年」「書写地」「書写者」「書写年」
- ・ 配布資料4の提起について、次のとおり修正する。
 - 13.0.6.7Bア 「資料（または刊行方式）の特性に」「順序表示に」
 - 13.10.1.1A別法 13.10.1.1別法に（条項番号の修正）
 - 13.10.1.1B 13.10.1.1A（同上）
- ・ 配布資料5の提起について、次の通り修正する。
 - 2.4.3.1B 改訂2版の例示のうち「天保6跋」を削除する。
 - 2.4.3.2A別法 改訂2版の例示「安政3 [1856]」は近代の年号の例に修正する。
 - 2.4.1.2A 末尾の注は現行の本文に続けて、「なお、」を補って本文の一部とする。
 - 用語解説 改訂2版の用語「訓点者」中の「（送りがな、返り点、ヲコト点など）」の部分は、今回追加する「訓点」中に移動する。

3. NCR1987年版改訂第3版の索引改訂について

- ・ 配布資料6を確認し、特に次の点を検討した。
 - 外題 5.0.3.2ア)にこの語が現れるが、修正した2,3章との整合がとれないので、本文を修正する。
 - 5.0.3.2ア)及びエ)中の「和装の楽譜」に係わる注記を削除し、5.0.3.2で2.0.3.2への参照記述を行うこととする。
 - 結果として、「外題」の参照先は2.7.4.1(古)エ)、付録6の2箇所となる。
 - 国名 江戸期以前の旧国名を指す条項も含まれているので、見出しに何らかの付記を加える。
- ・ 配布資料7を確認し、特に次の点を検討した。
 - 更新 改訂2版の「更新（電子資料）」を統合する。
 - 書誌的事項 - 記録すべき - ...
 - 「巻次・年月次」を「順序表示」とする最小限の修正にとどめ、他の項目は現行のままとする。
 - 増補 1.2.3.0、9.2.3.0、13.2.3.0を追加
- ・ 配布資料8の提起に従い、表記方法の統一をはかることとした。
- ・ 凡例2中の「ただし、例外的にページで示したものもある。」は不要と思われるので、最終確認のうえ削除することとした。

- ・ 増井委員、原井委員を中心に最終確認を行って確定をはかる。

4．ISBN13桁化に係る対応案について

前回の検討を反映させた配布資料9について検討し、以下の修正を行うこととした。

- ・ 2.8.1.2A任意規定の例示をISBD区切り記号に従った表記とする。また、「ISBN」と番号の間に半角の空白を置く。
- ・ 2.8.1.2任意規定に、13桁の例示を置く。
- ・ 用語解説中の「書籍フラグ」をより丁寧な表現「共通商品コード(EAL)における書籍を意味するフラグ」に改める。

5．国際動向に関する今後の検討作業について

今後の進め方について討議し、以下を確認した。

- ・ RDA draft2005については、ALAからの意見が公にされている。本案の枠組みで進んでいくのかどうかは疑問である。
- ・ 目録規則の今後の発展を考えると、ダブリンコアをはじめとする他のコミュニティの規則類とどう整合していくのかが重要な論点の一つである。RDA draft2005においても、モデル化がなお不十分であるとの指摘がある。
- ・ 引き続きRDA draft2005の第3,4章を次回委員会で検討し、一区切りとする。
- ・ 8月のIME-ICC4では、基本記入制に対する考え方やヨミ・分かち書きの問題など、CJK各国の目録特有の問題点を国際会議の場を出していくことが重要である。6月以降はIME-ICCを視野に入れ、パリ原則、国際目録法原則草案等とNCRとの関係について検討を行う。

次回以降の委員会の予定

5月27日(土) 15:00～

6月24日(土) 14:00～

以上